

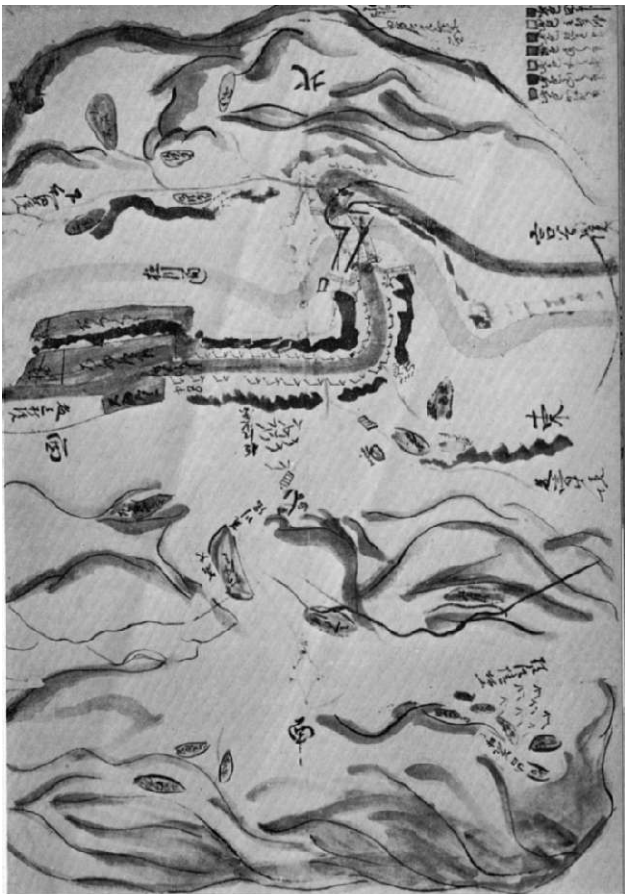
## 第1編 古地図・古絵図

### 第1章 江戸期の地図・絵図

図1101 猿橋宿絵図 文化3年(1806) 都留市 蔵(森嶋家文書)



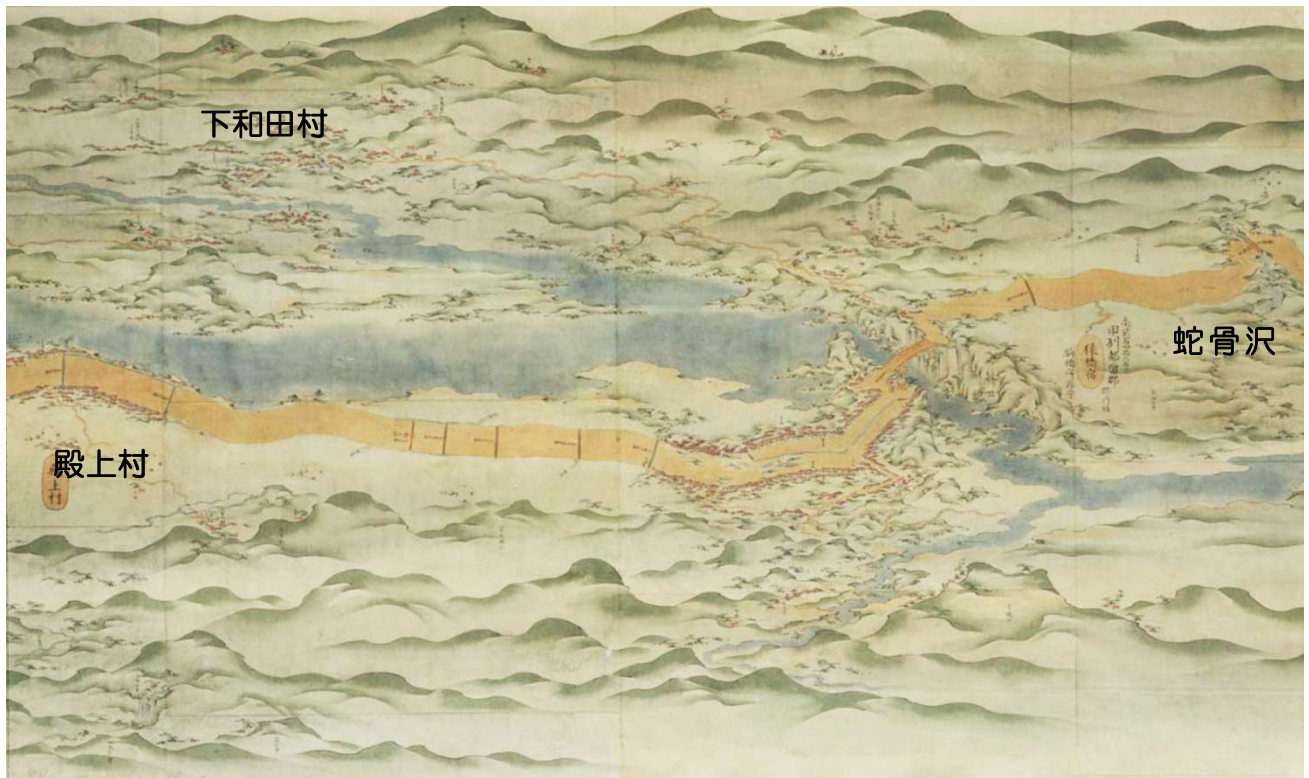
図1102 猿橋村絵図 弘化2年(1845)  
猿橋村田方破免絵図面  
(大月市史) 幡野逸男家文書



水害の少ない猿橋村であるが、この年の大雨で「あづくめ」および小倉等の枝郷で被害があった模様。

この地図はその災害を役所に報告する文書に添付したものと考えられる。

図1103 甲州道中分間絵図



何の製作開始年？ 宿なら整備開始？ 完了→ （製作開始は寛政年間、完成は文化3年）  
猿橋宿は日本橋から24番目の宿。家数138軒ほど、本陣1・脇本陣2・旅籠10軒を擁する繁華な宿場町だった。宿場の中心・問屋場は現在のガソリンスタンドあたりにあった。  
旧活版所があった**辺り**で五ヶ堰の分流が街道を横切っており、その土橋が宿場町の西側入口だった。

図1104 同上 猿橋宿主要部



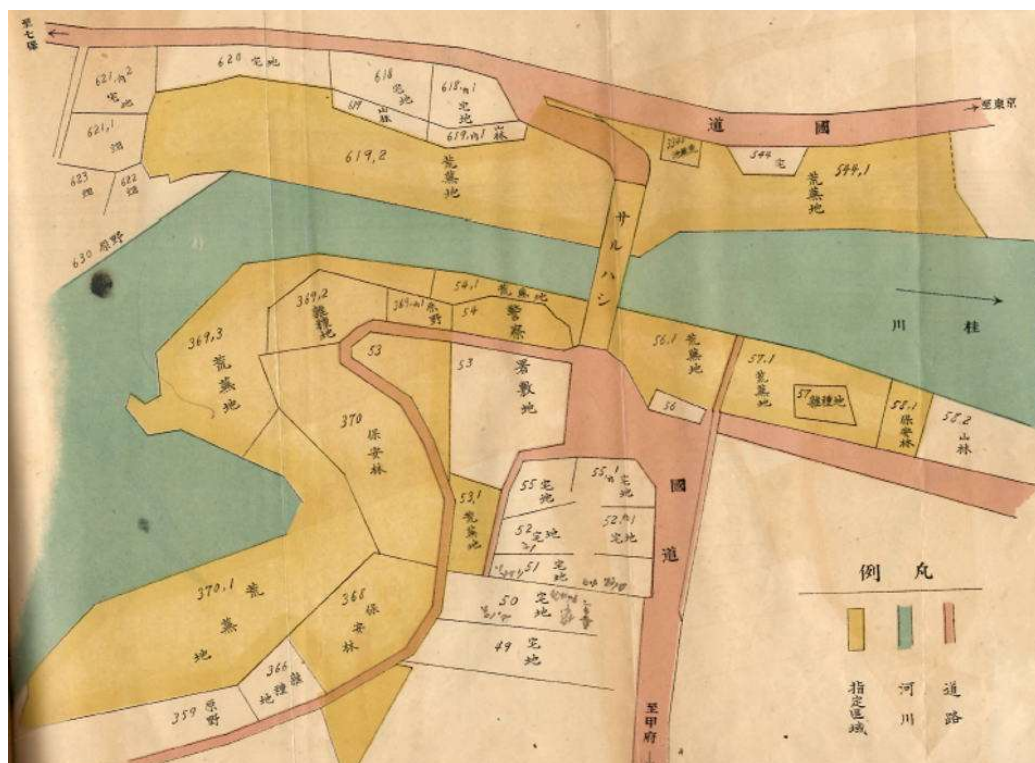
## 第2章 明治期の地図・絵図

図1201 猿橋近辺の地図 明治15年(1882) 山梨県甲斐国全図より



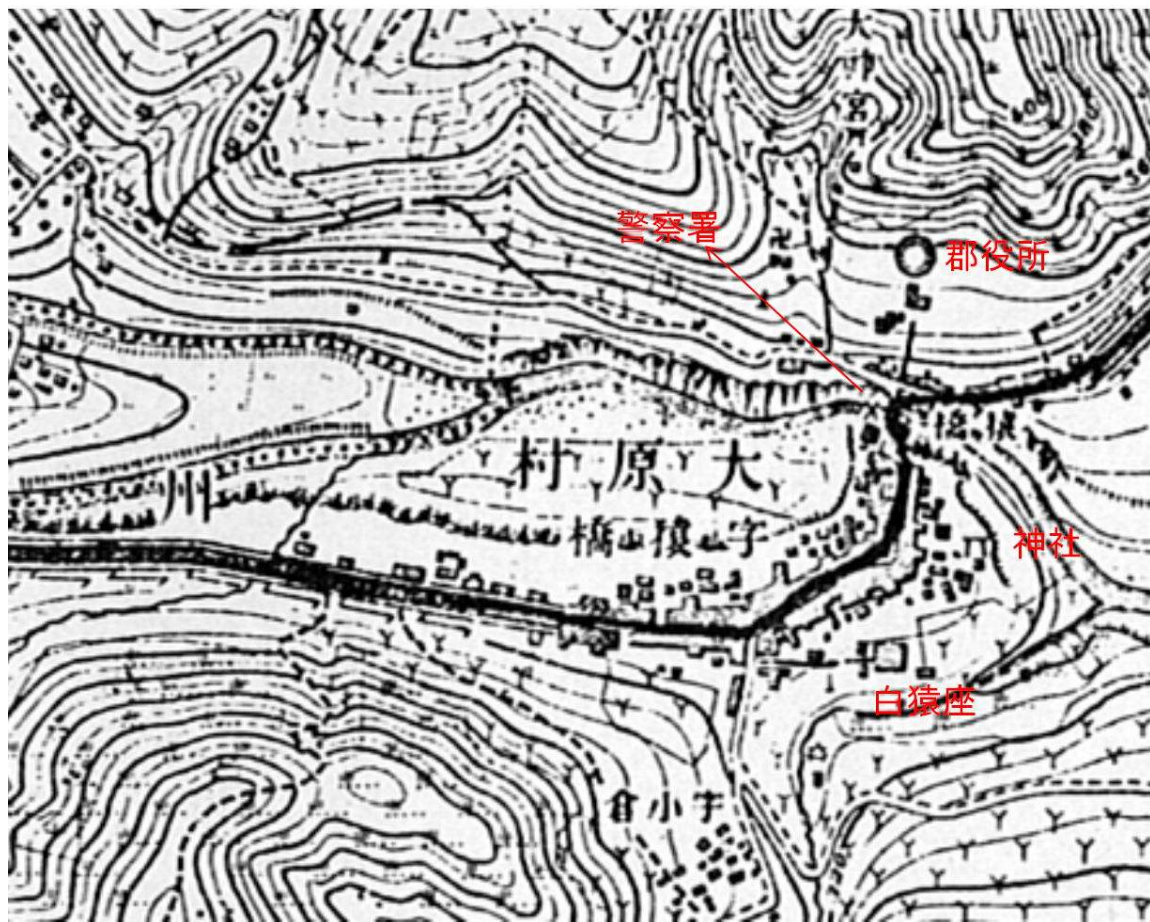
(大月宿と駒橋宿が合併し「大橋駅」となっている。)

図1202 新猿橋架橋以前の猿橋北詰・南詰の絵地図



南詰に猿橋警察署があった。その敷地を横切る道は川原へおりて行く現在の「アジサイ遊歩道」。

図1203 明治15年の国土地理院地図



中央線開通以前の珍しい地図。郡役所（○）・警察署（×）・心月寺（卍）・諏訪春日神社（卍）が見える。白猿座と思われる大きな建物も見える。

図1204 明治43年（1910）の国土地理院地図（中央線開通後）

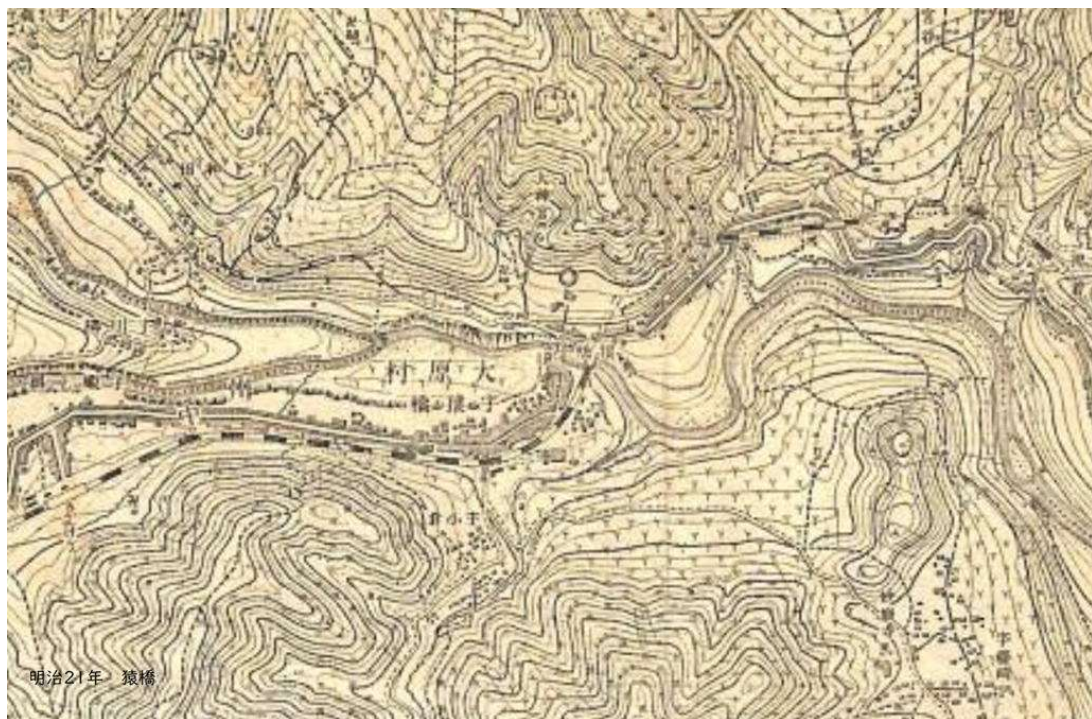
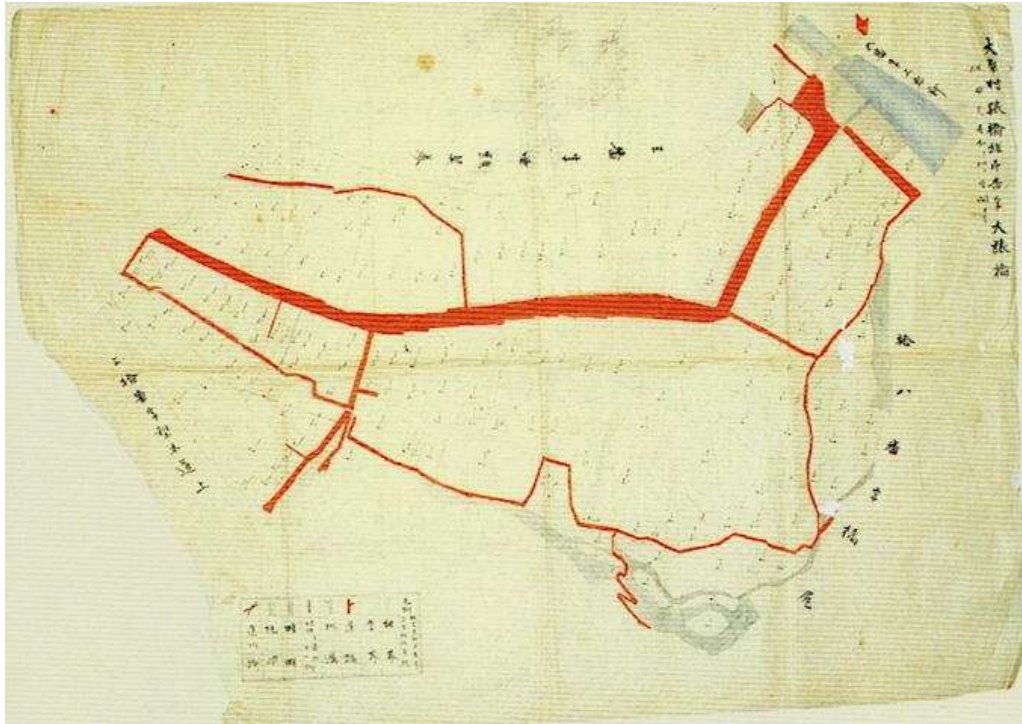


図1205 明治初期の公図（案）

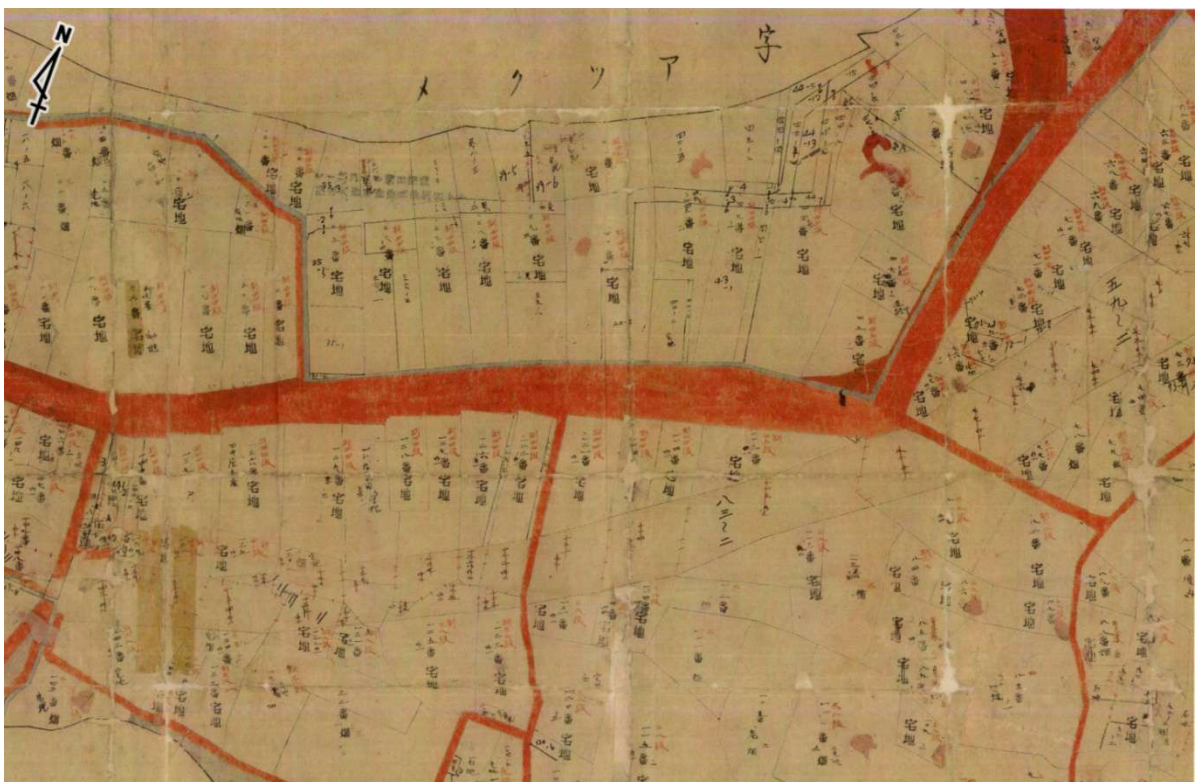
藤本紘氏 蔵



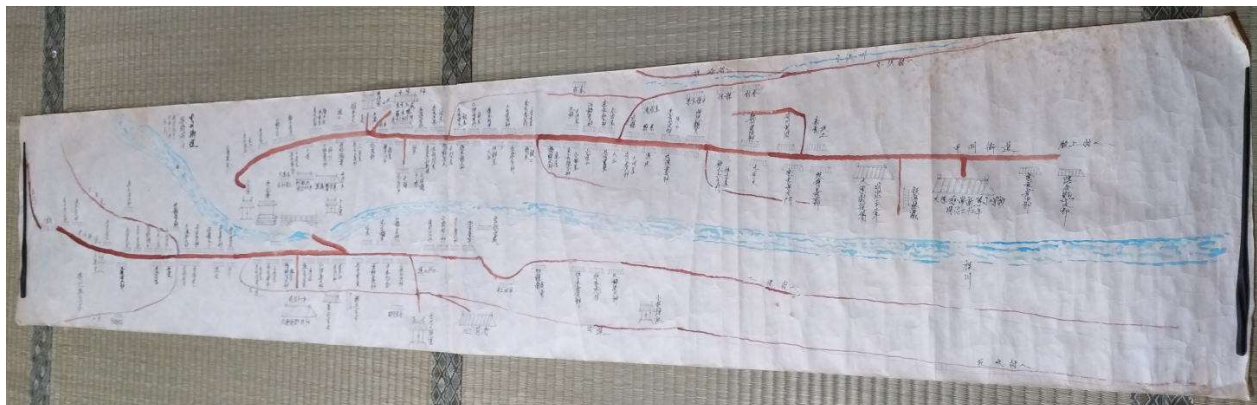
畳2畳程の大きさの図面。既に中央線の敷設経路が明かになっていたのか、**原図**では鉛筆で当該場所に書き入れがある。しかし、鉄道敷設による分筆などはまだ行われていない。

図1206 明治30年代（1897）の公図

大月法務局 蔵



中央線の線路用地のために、多くの土地が文筆されていることがわかる。



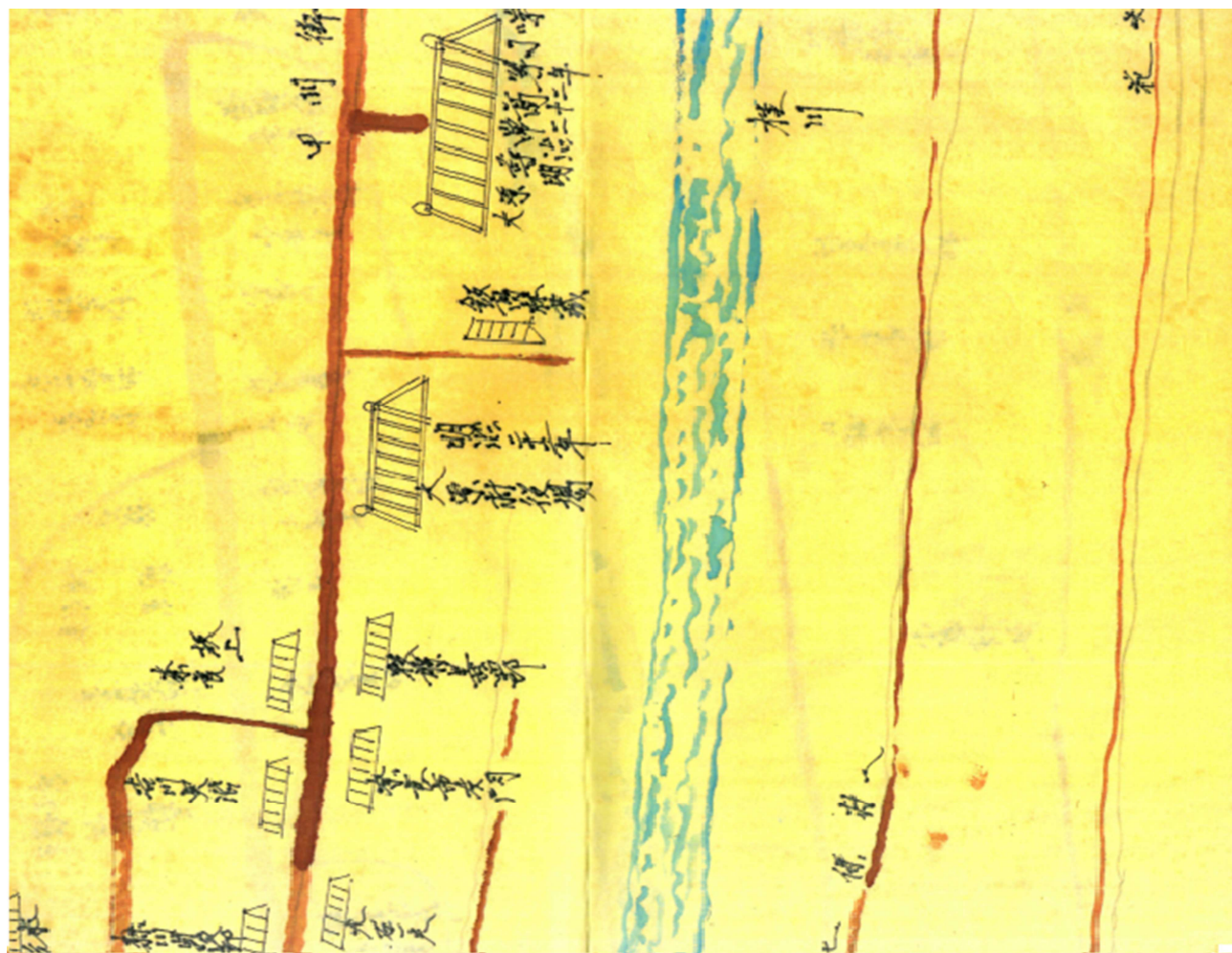
「明治初めより四十年頃の住民」との書き入れあり

この絵図の作成者の署名はないが、現在の所有者（水越氏）によると、かつて横町の松葉地区に住んでいた水嶋義雄氏とされている。

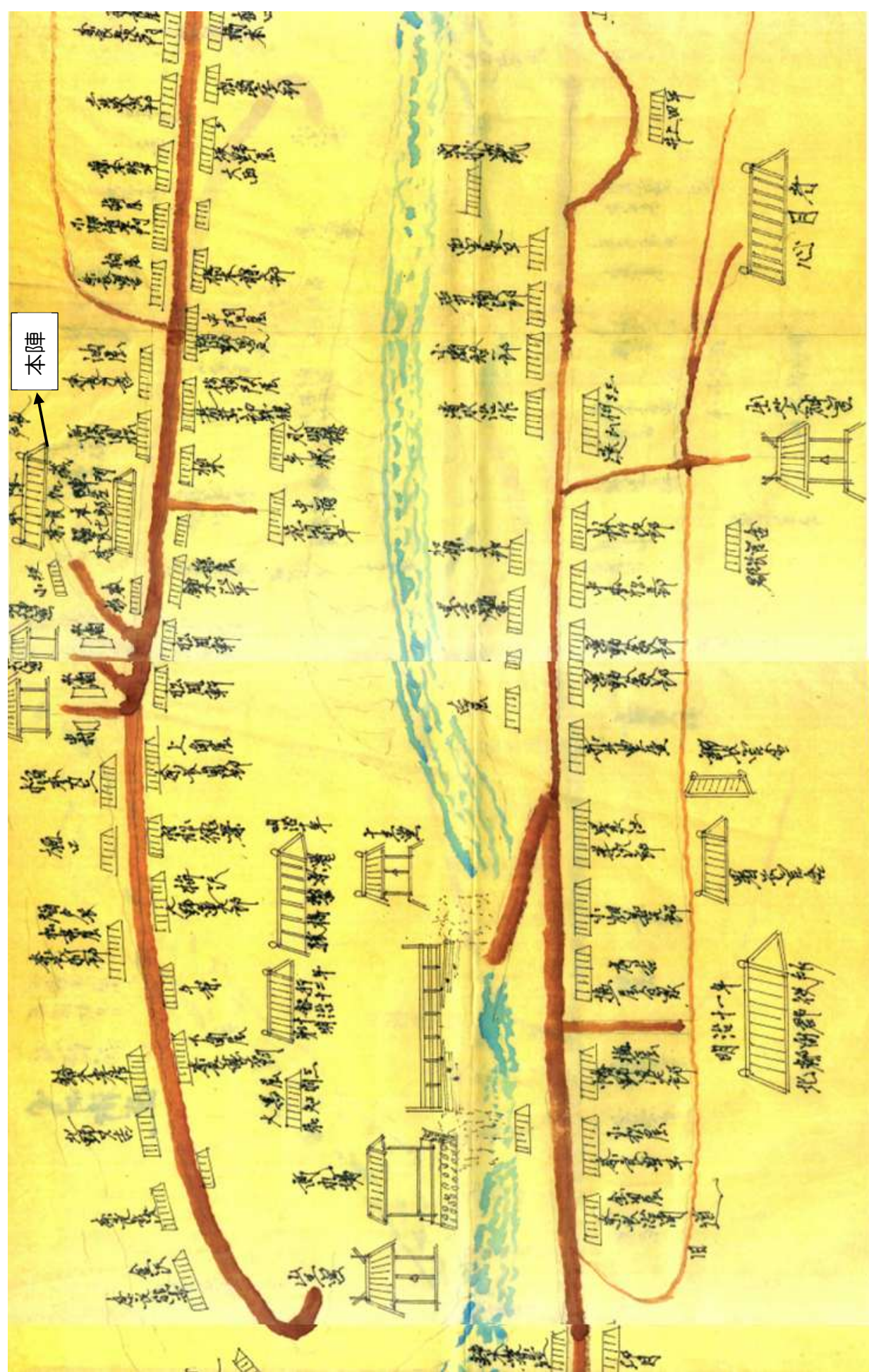
水嶋氏は平成10年（1998）に「八十五翁」と自称しているので、大正2年頃の生れと思われるが、どのような史料をもとにこの明治の絵図面を書いたのかは不明である。

以下、この絵地図を3分割して掲載する。（通常の地図と南北が逆となっているため注意）

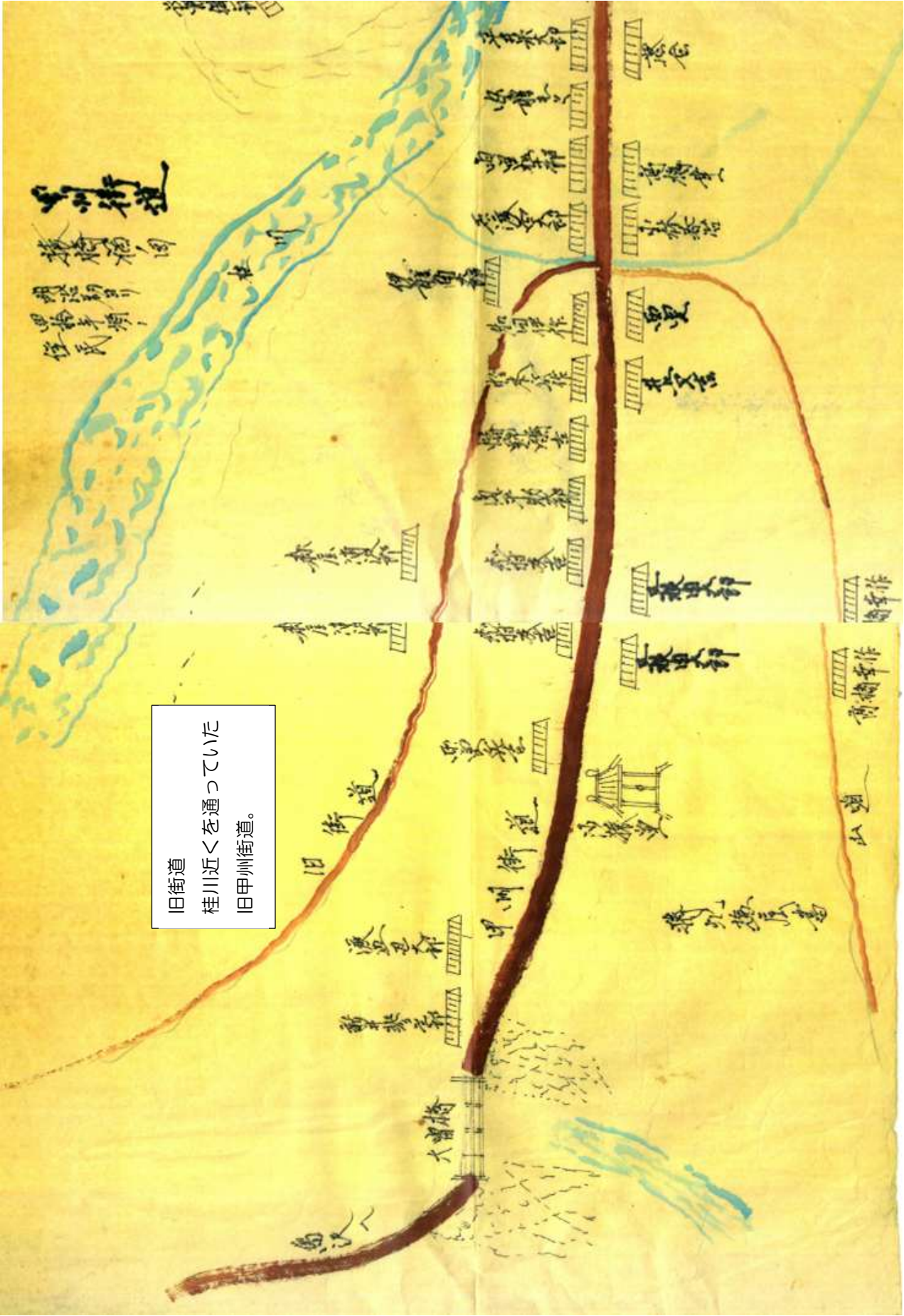
西 ↑



寿町～小柳町



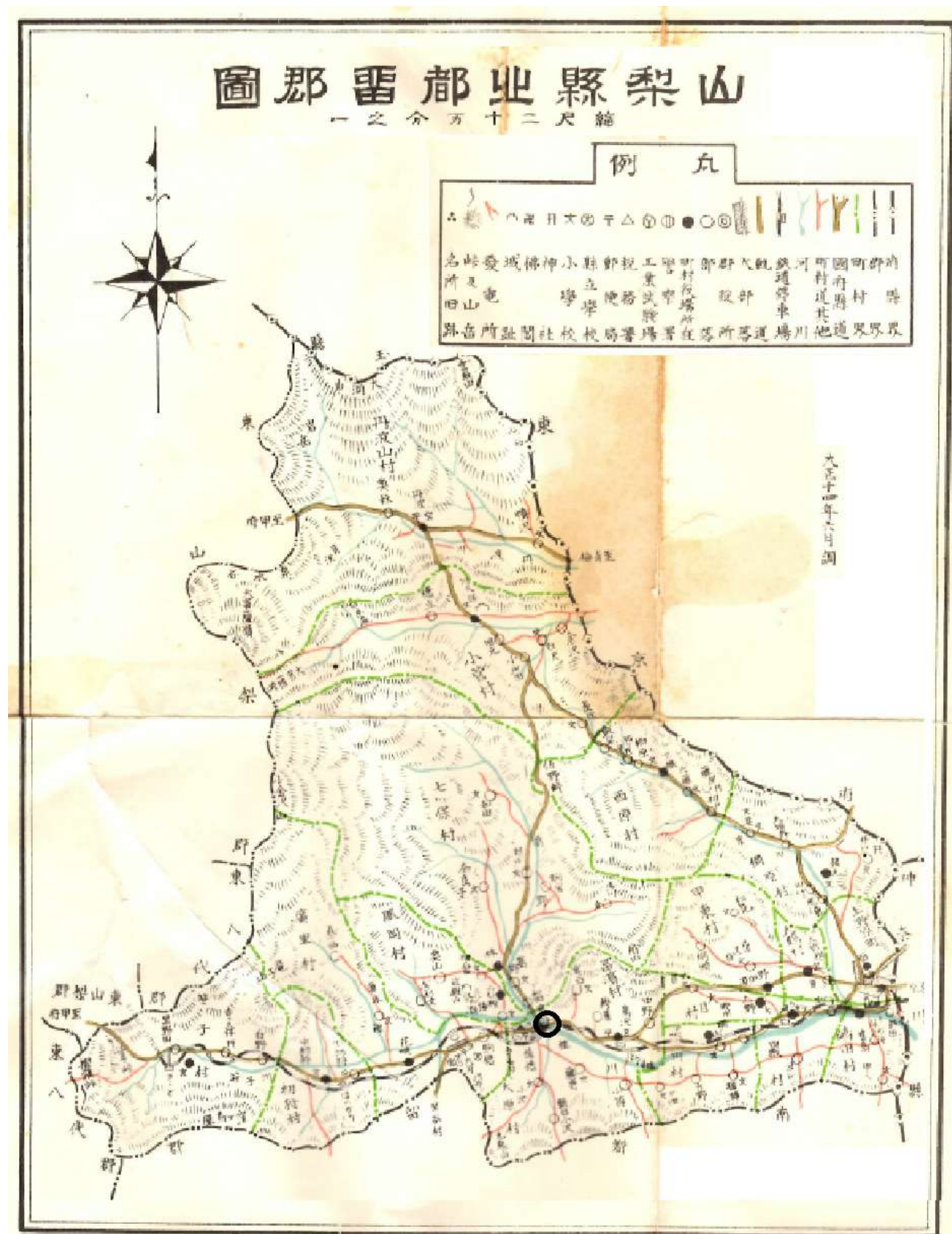
鹽城主要部



旧街道  
桂川近くを通っていた  
旧甲州街道。

東町

図1301 山梨県北都留郡図 大正14年(1925) (北都留郡誌の地図を一部加工)

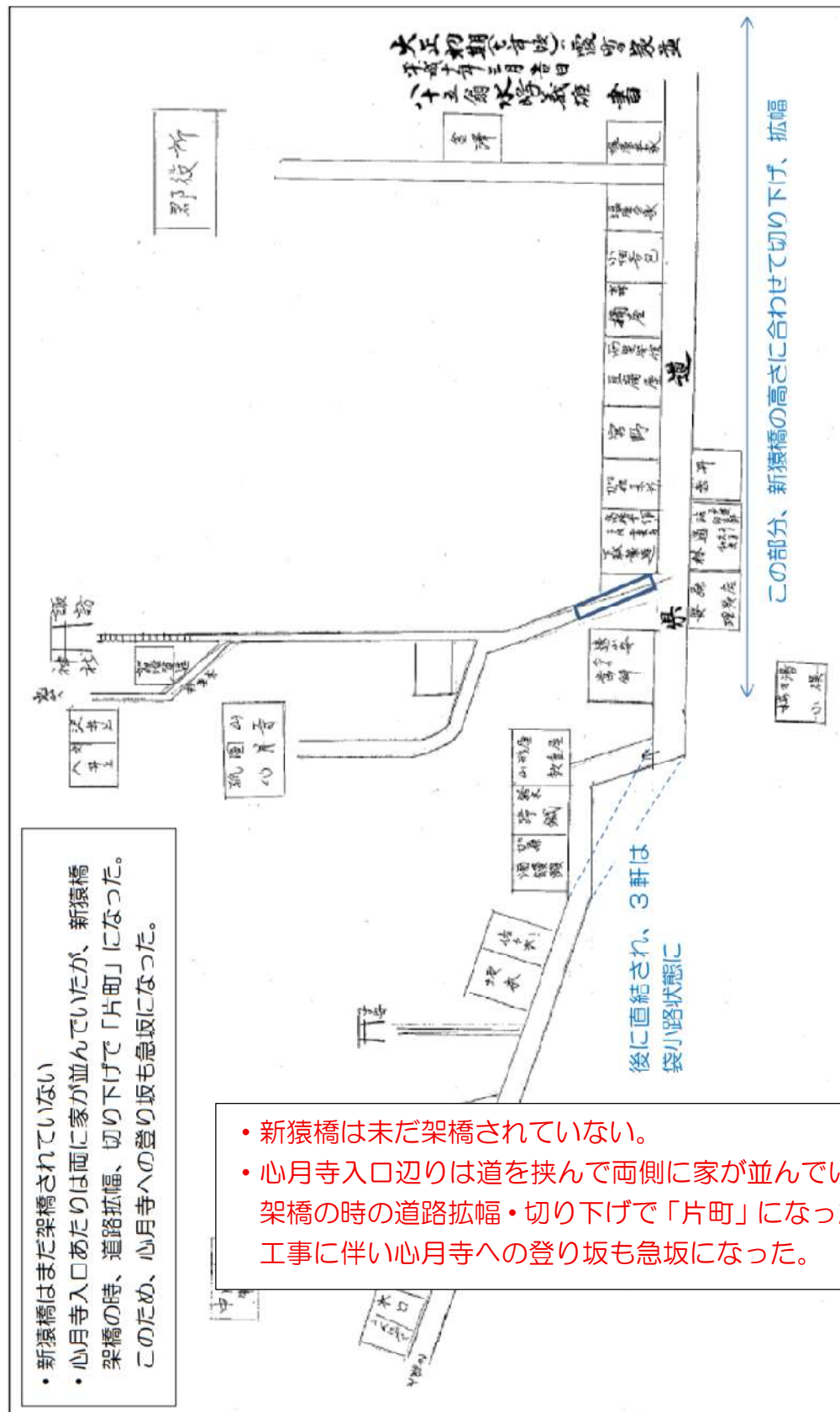


郡役所はまさに北都留郡の中央、要の位置にあった。

図1302 大正初期（7年頃）の家並

水嶋義雄氏が大正期を回想して描いた猿橋町内6町の家並図。平成10年（当時85歳）の作成。水嶋氏が住んでいた横町、および仲町・寿町の家並図には、その家に住む子供の名前が記入されている。

水越孝之氏 所蔵

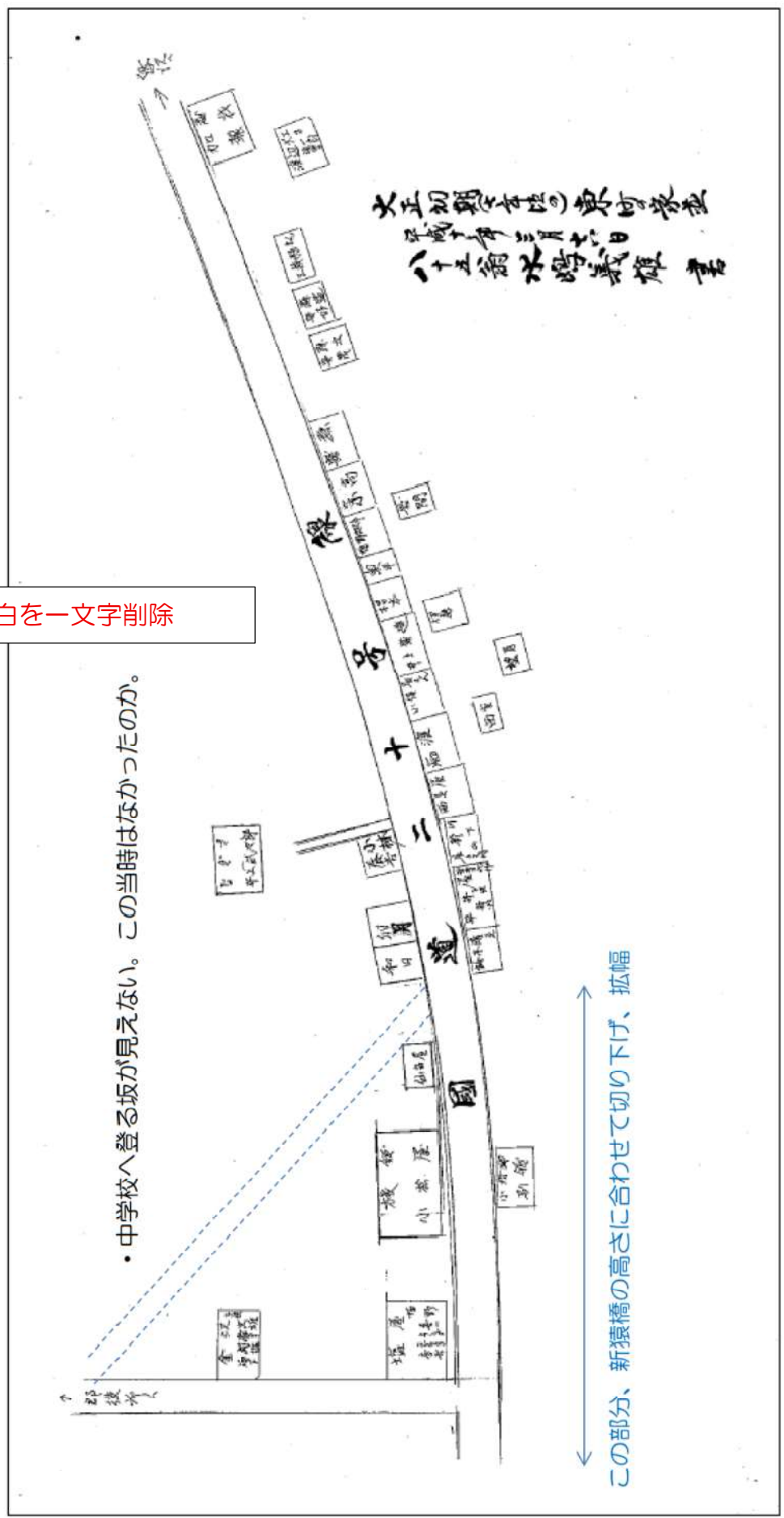


- 新猿橋はまだ架橋されていない
- 心月寺入口あたりは面に家が並んでいたが、新猿橋架橋の時、道路拡幅、切り下げで「片町」になった。このため、心月寺への登り坂も急坂になった。

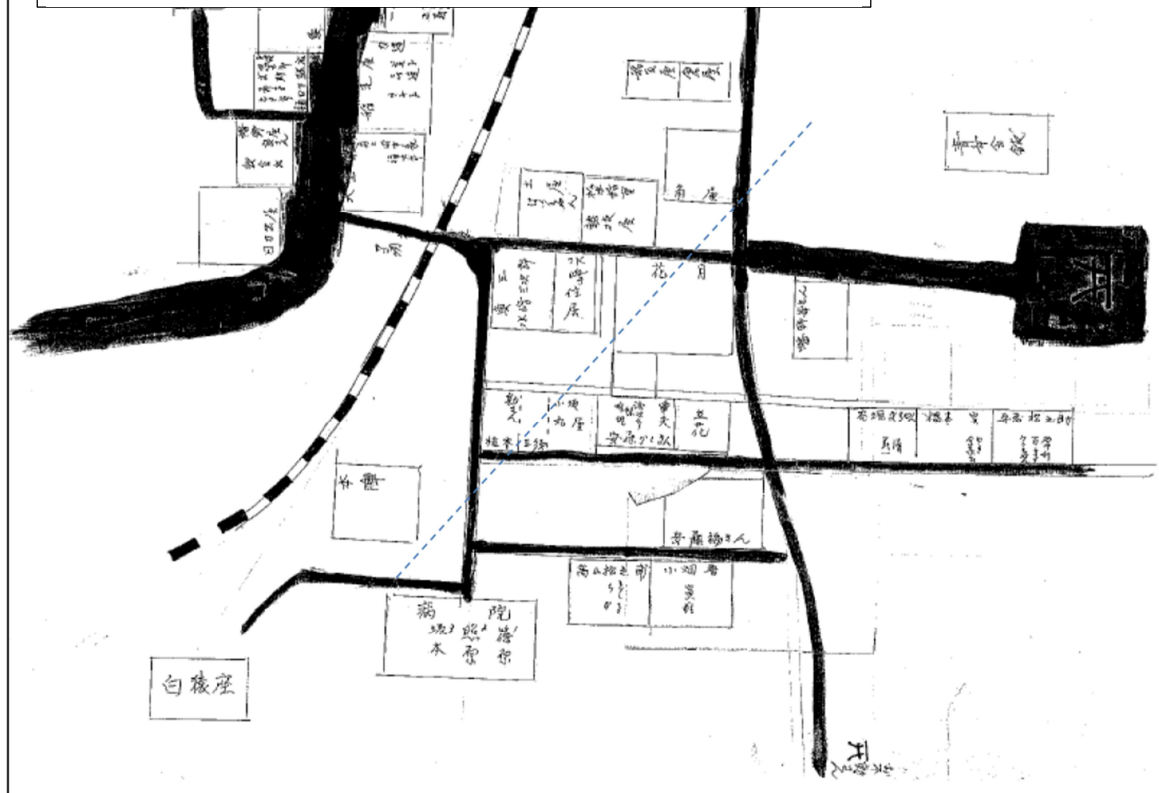
- 新猿橋は未だ架橋されていない。
- 心月寺入口辺りは道を挟んで両側に家が並んでいたが、新猿橋架橋の時の道路拡幅・切り下げで「片町」になった。また、この工事に伴い心月寺への登り坂も急坂になった。

大正初期の猿橋の町並 東 町

東町の空白を一文字削除

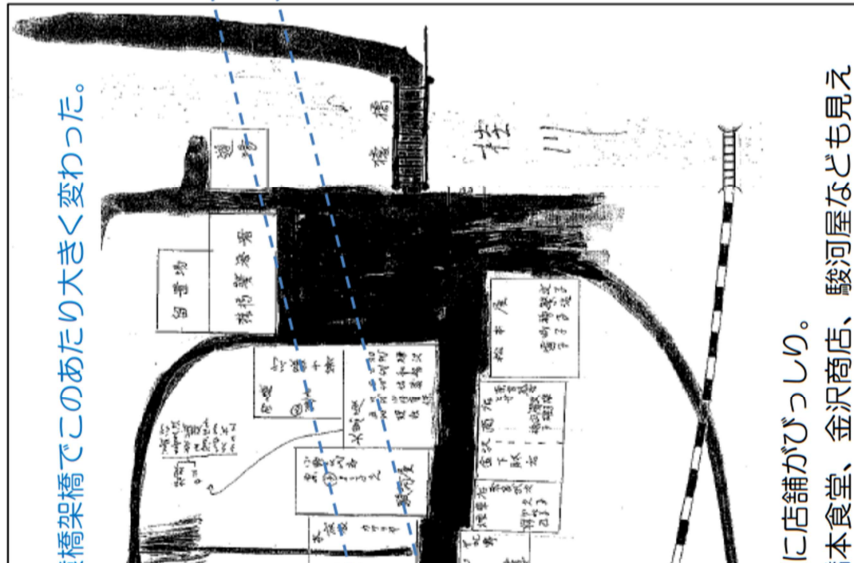


# 大正初期の猿橋の町並 横町



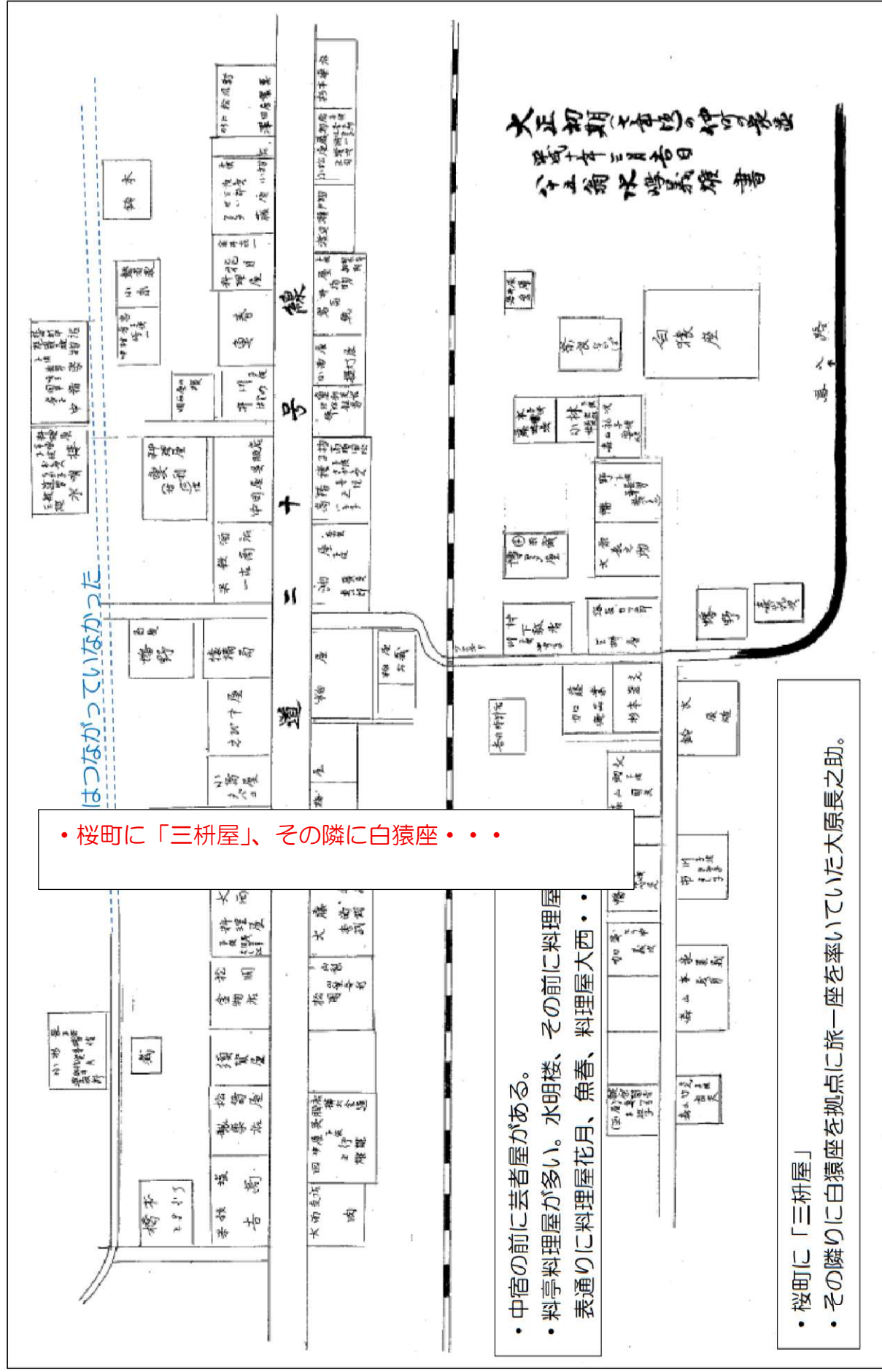
- ・名橋猿橋に続く中心街、両側に店舗がびっしり。
- ・戦後も続いていた大黒屋、橋本食堂、金沢商店、駿河屋なども見える。
- ・煙草売捌所（煙草店）、人力車店、建具店など。
- ・佐藤たみ店（うどん店）は表通りにあった。
- ・松葉地区にも花月など料理店らしき店が多い。
- ・猿橋病院は篠原、照原、坂本と代わり替わっている。
- ・仲町に属すると思うが白猿座が見える。
- ・本陣とあるのは何か建物が残っていたのか、跡なのかわからない。

文中の句読点を中点に変更 枠を大きく する。を繋げる

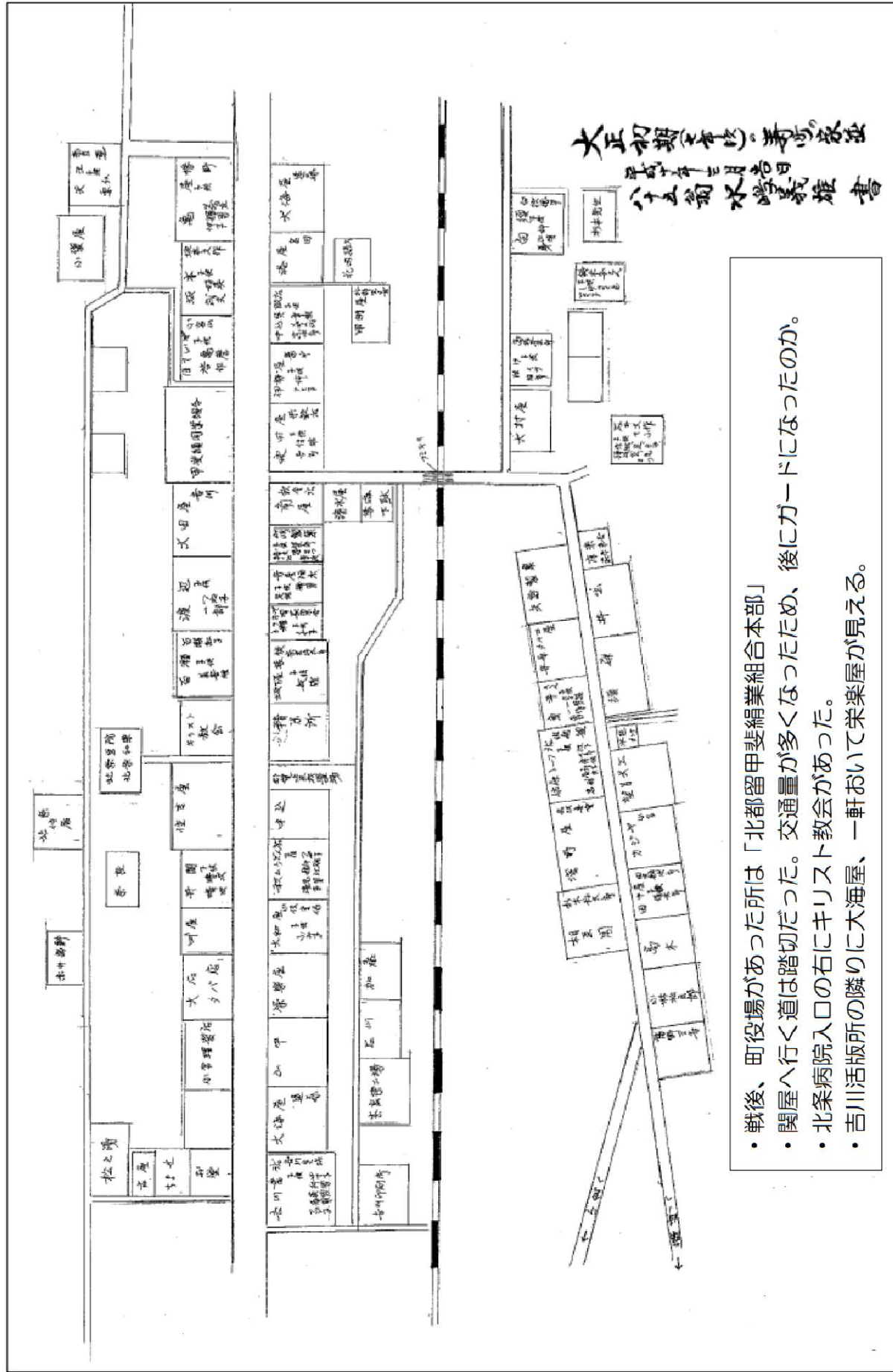


る。

- ・煙草売捌所（煙草店）、人力車店、建具店など。
- ・佐藤たみ店（うどん店）は表通りにあった。
- ・松葉地区にも花月など料理店らしき店が多い。
- ・猿橋病院は篠原、照原、坂本と代わり替わっている。
- ・仲町に属すると思うが白猿座が見える。
- ・本陣とあるのは何か建物が残っていたのか、跡なのかわからない。



## 大正初期の猿橋の町並 寿町



大正初期の猿橋の町並 小柳町

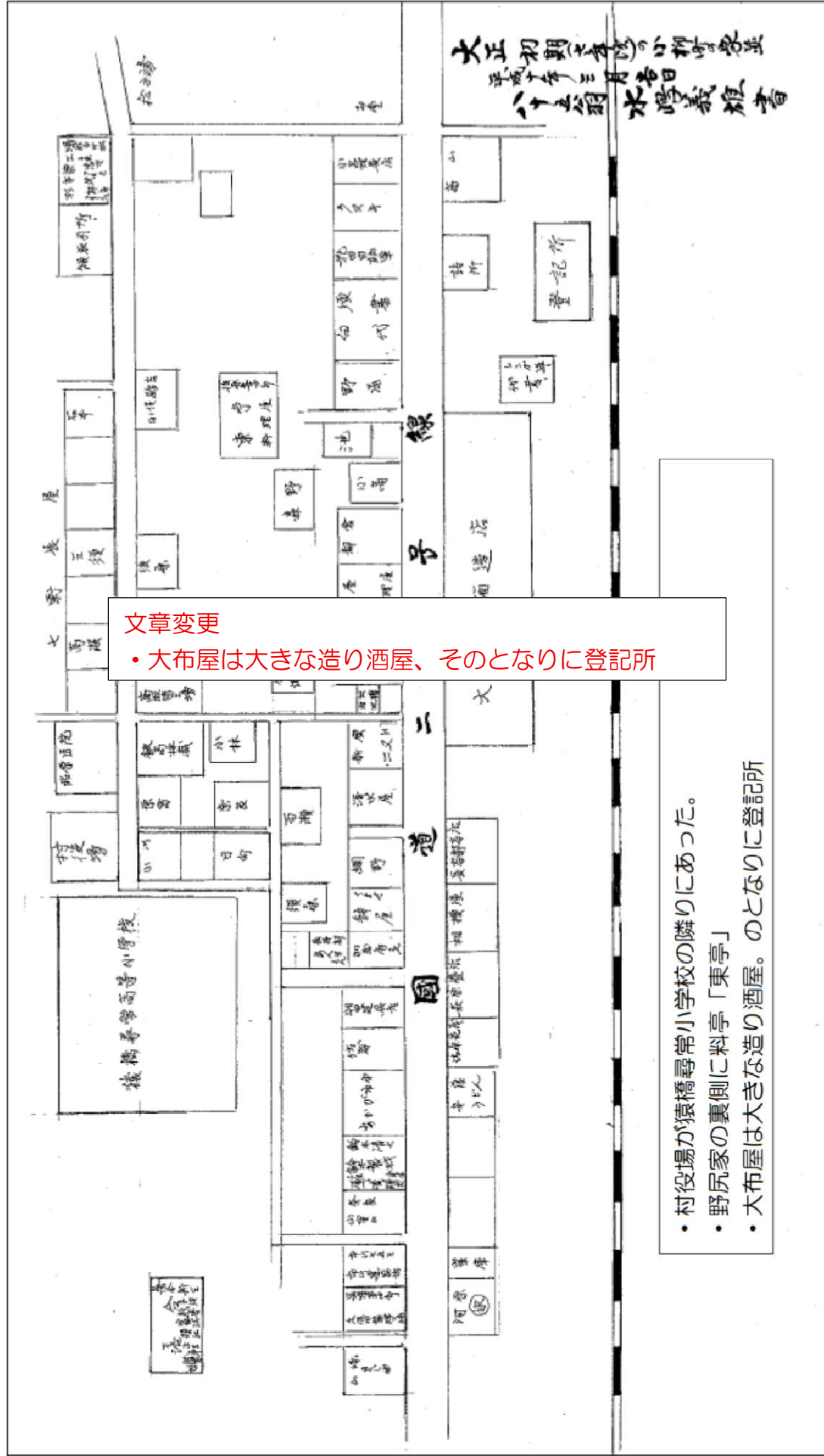
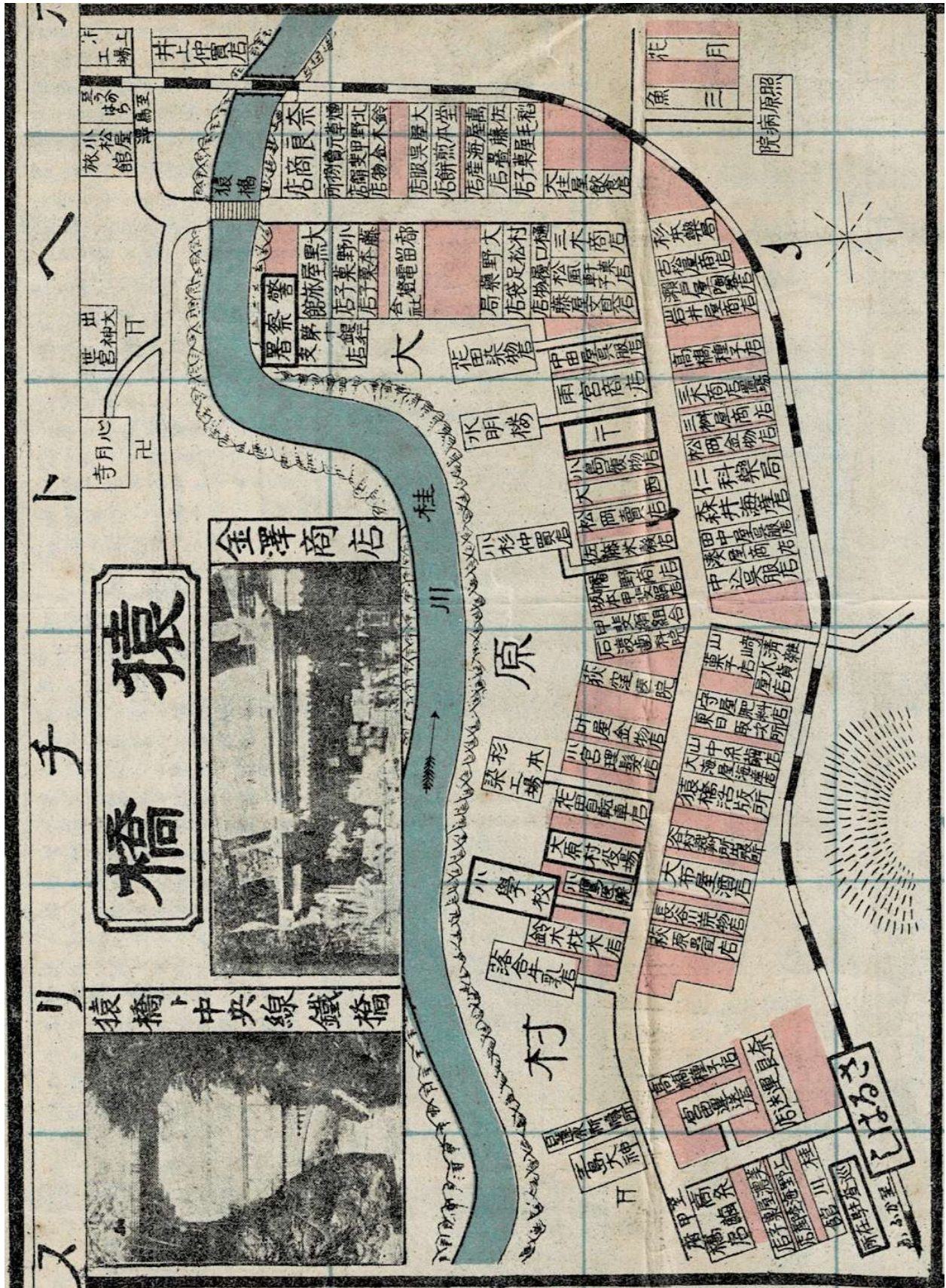


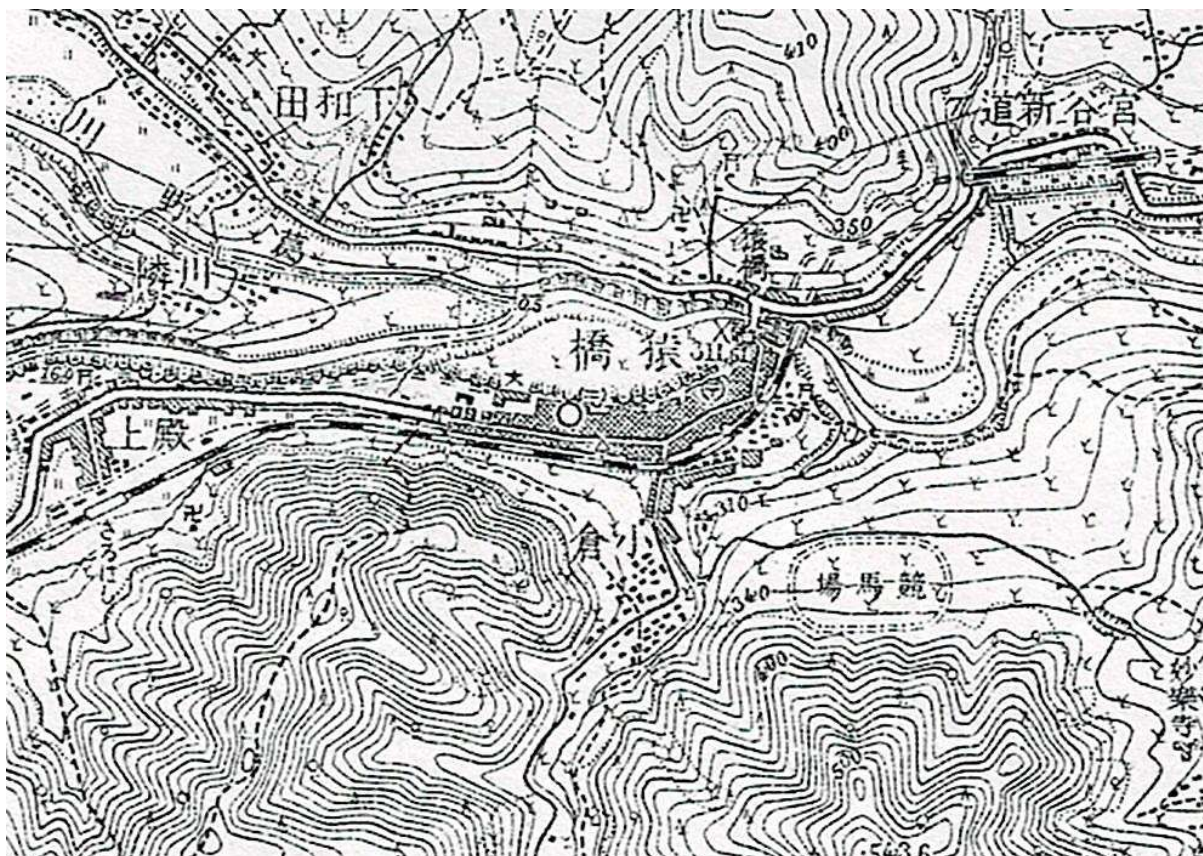
図1303 大正11年の猿橋商店街絵図（天野美和さん提供の職業別明細図より）



「水嶋氏の大正初期の絵地図（1301）」と時期はそれほど変わらないが、内容は異なる所が多い。大正11年（1922）当時としてはこの地図が恐らく正しいだろう。官庁や会社・商店だけの案内なので一般住宅は記されていない。

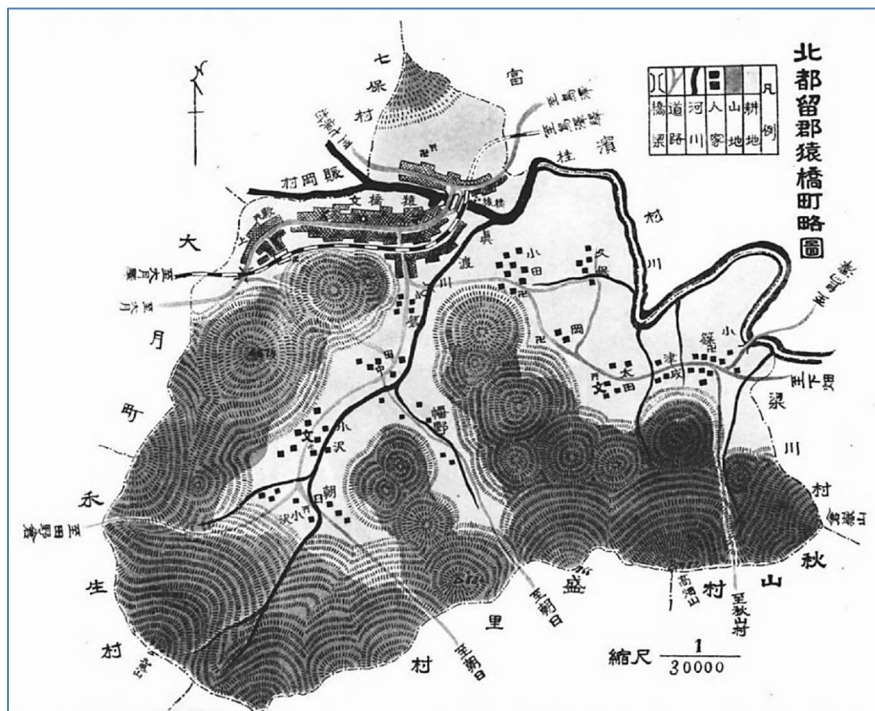
## 第4章 昭和期の地図・絵図

図1401 昭和7年(1932) 国土地理院 猿橋主要部



大原村役場(○)は現在の警察派出所あたり、郵便局(〒)は仲町、小学校(文)は小柳町にあった。伊良原に猿橋競馬場があったことがわかる。

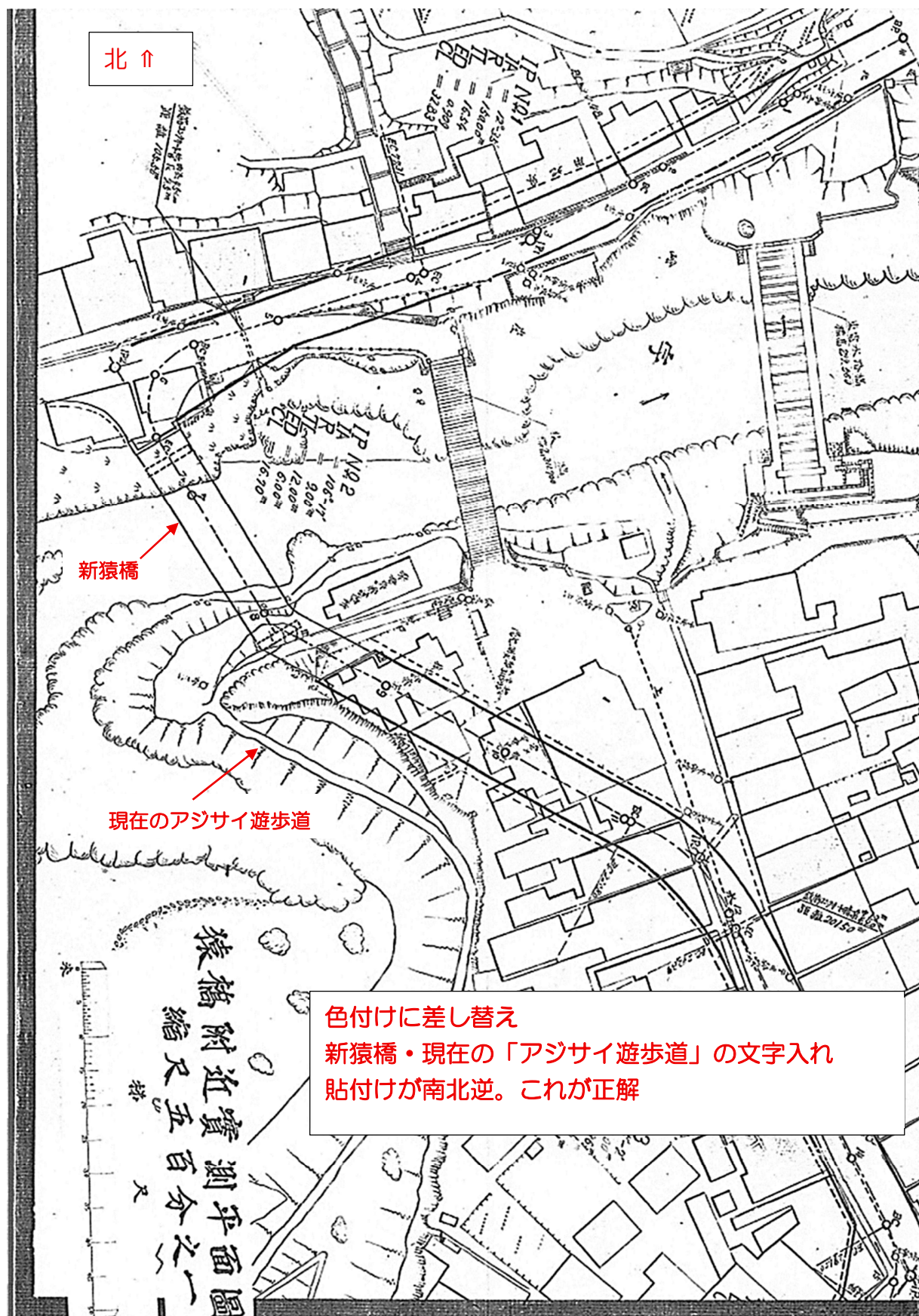
図1402 猿橋町制施行時の猿橋町略図 昭和10年(1935)



明治4年(1871)、殿上村・猿橋村・小沢村・朝日小沢村・藤崎村が合併し大原村になり、昭和10年の町制施行で猿橋町となった。山を表す円形は等高線ではない。

図1403 新猿橋架橋前の測量図 昭和7年(1874)

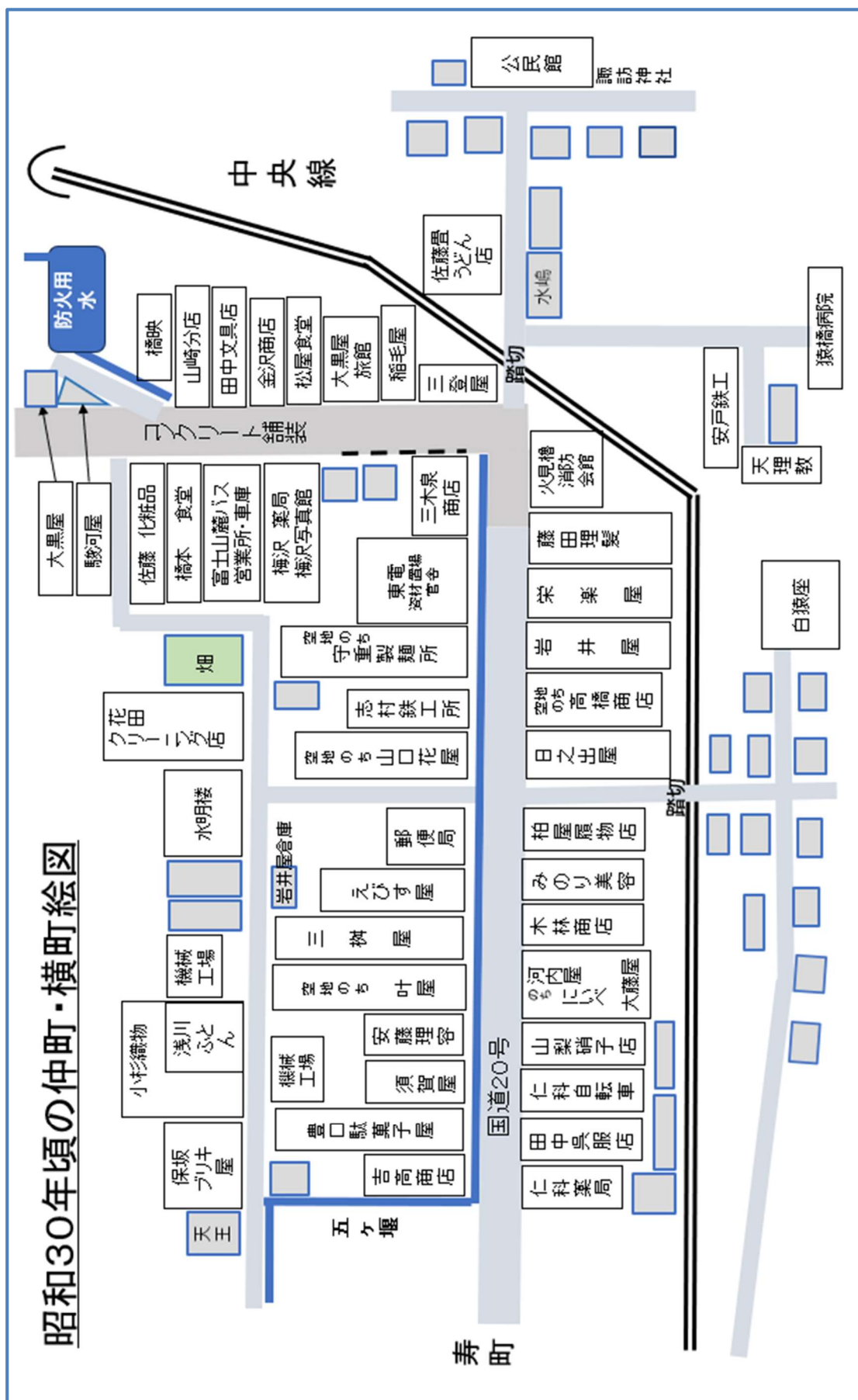
東京工事事務所



新猿橋架橋で橋の北側も南側も大きな影響をうけた。特に南側は猿橋警察署をはじめ、第十銀行支店・大黒屋・駿河屋など橋畔の旅館・商店などが移転、建て替えなど余儀なくされた。

図1 404 昭和30年頃の町並図（仲町・横町） 尺度は不正確 （作成 一杉勝）

「本頁・次頁の絵図は、記憶を呼び起こしての作図に付き実際とは異なる部分もあり」



国道は未だ砂利道、コンクリート舗装は藤田理容店前から橋畔までだった。おそらく新猿橋架橋時の舗装だろう。

春夏の祭典の時はこの通路にぎっしり露店が並び、どこから来たのだろうと思うほどの客が集まっていた。車面は通行止めで下和田の方に迂回したのである。

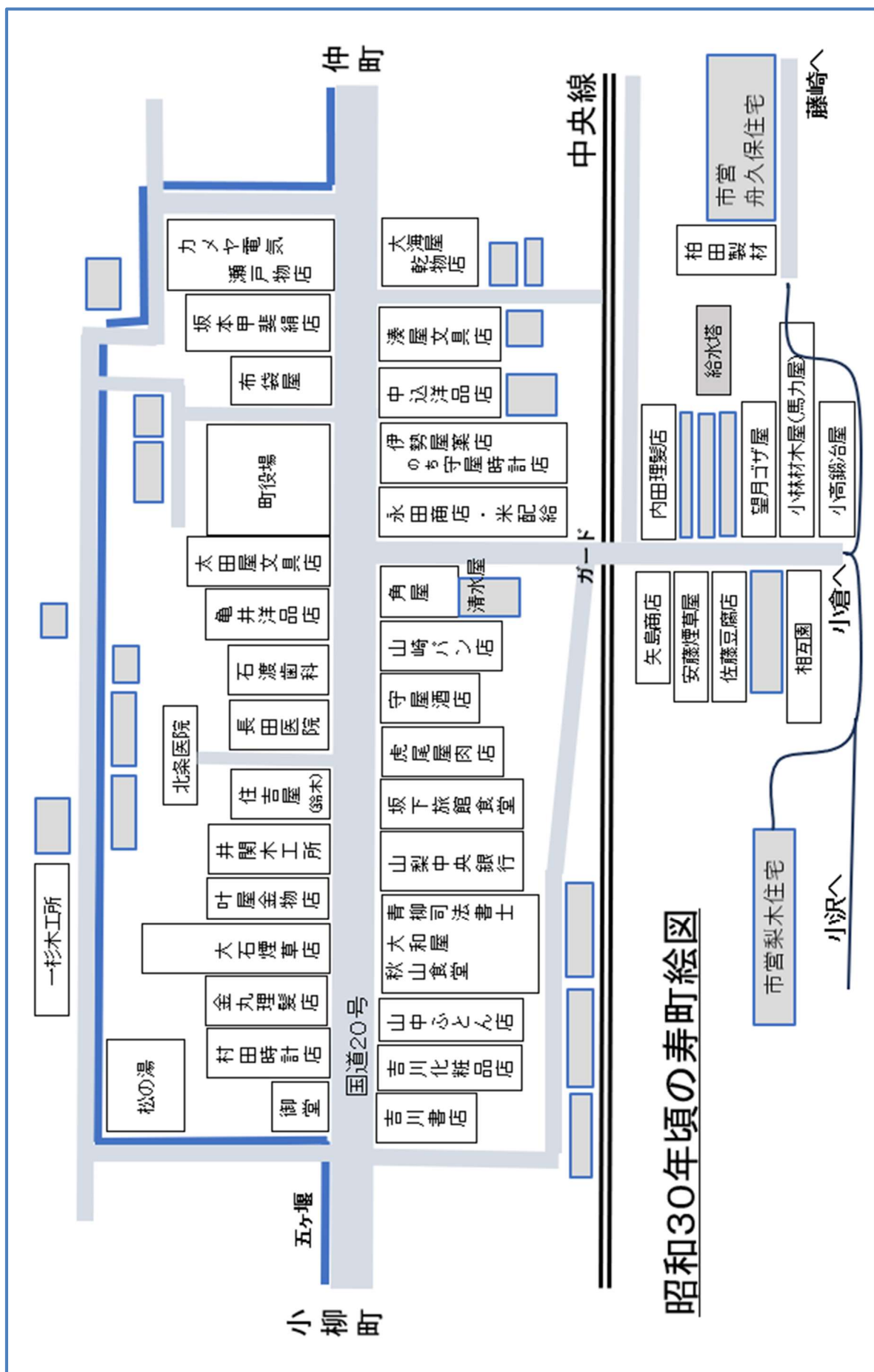


図1406 新しい「新猿橋」架橋（昭和43年（1968））による交通路の激変

